

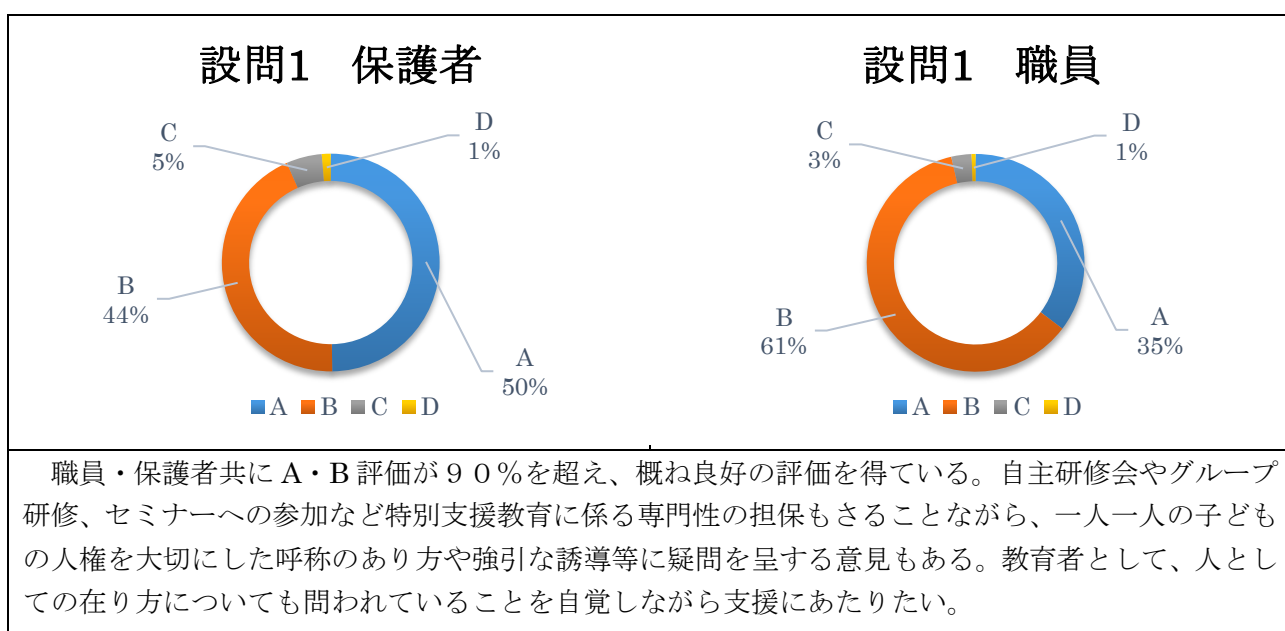
1 回収率

| | 小学部 | | | 中学部 | | | 高等部 | | | 分教室 | | | 合計 | | |
|-----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|----|----|-----|-----|----|
| | 人数 | 提出 | % | 人数 | 提出 | % | 人数 | 提出 | % | 人数 | 提出 | % | 人数 | 提出 | % |
| 保護者 | 98 | 77 | 79 | 73 | 58 | 79 | 93 | 77 | 83 | 19 | 11 | 58 | 283 | 223 | 79 |
| 職員 | | | | | | | | | | | | | 169 | 165 | 98 |

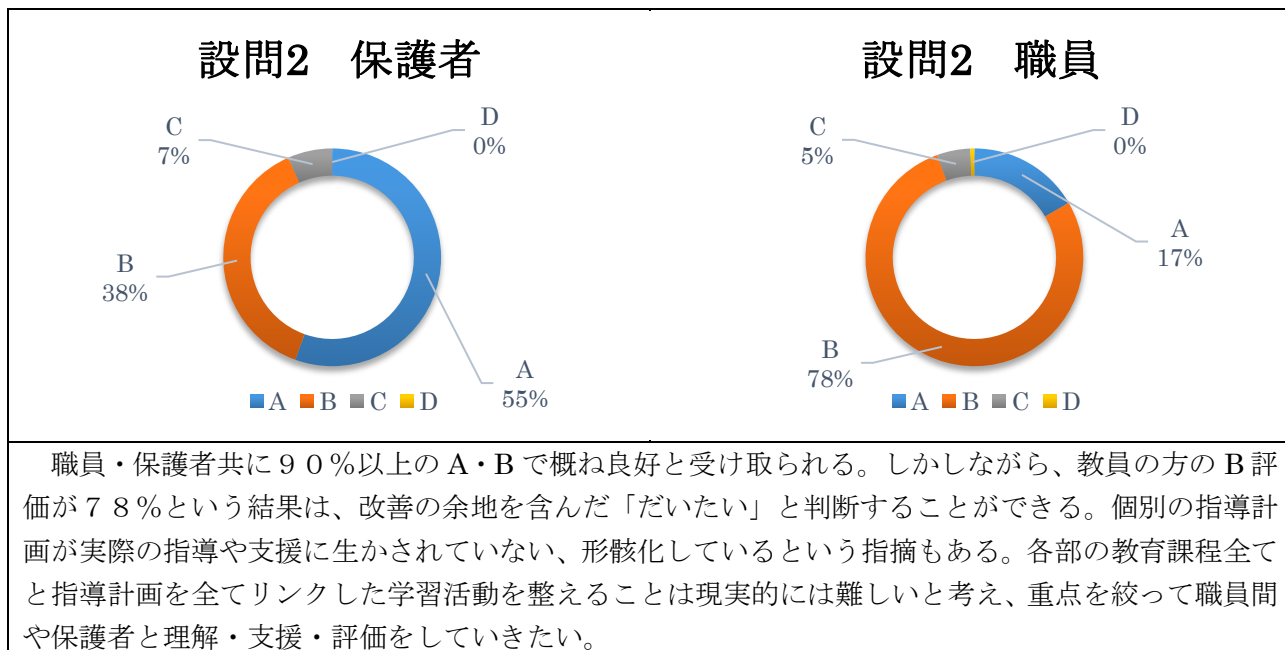
評価基準 A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない

2 項目ごとの保護者・職員間比較

設問1 職員は、生活年齢や障がい特性に配慮し、特別支援教育の専門性を生かした教育を行おうと努力していると思いますか。

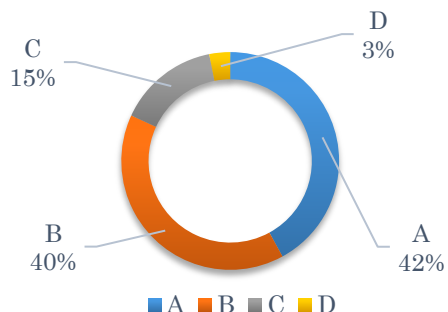


設問2 学校は、個別の指導計画を作成し、それに基づいて適切な指導、支援をしていると思いますか。

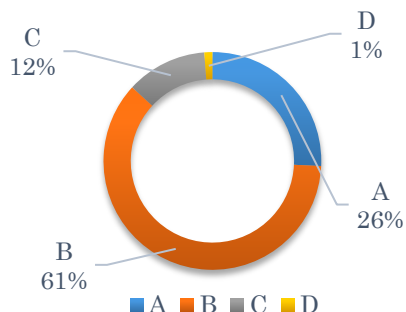


設問3 学校は、前年度の学級や学部からの引き継ぎが適切になされ、連携した指導、支援を行っていると思いますか。

設問3 保護者



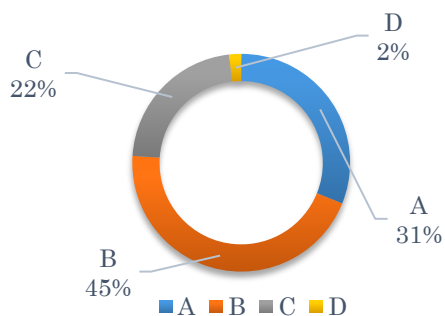
設問3 職員



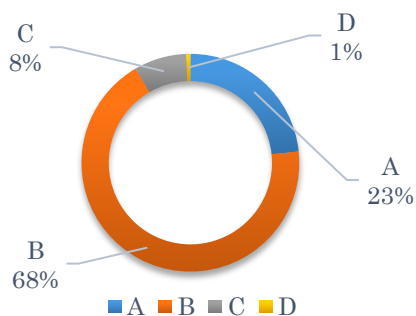
子どもの支援に係る引き継ぎに課題を感じている保護者、職員がいる。特に支援の継続性・連続性といった観点において、保護者からは、「担任が毎年かわって心配」「週毎の担任交代の引き継ぎが不十分」、教員・保護者共通の意見として、「支援の引き継ぎが不適切」といった意見が寄せられている。日常的な子どもの情報交換や学年や部間を超えた子どもの情報や支援の引き継ぎなどシステムを整えていく必要がある。

設問4 学校は、家庭・地域・関係機関（市町村の福祉関係機関、支援センター、ハローワーク、医療機関、児童相談所等）と有意義な連携を行っていると思いますか。

設問4 保護者

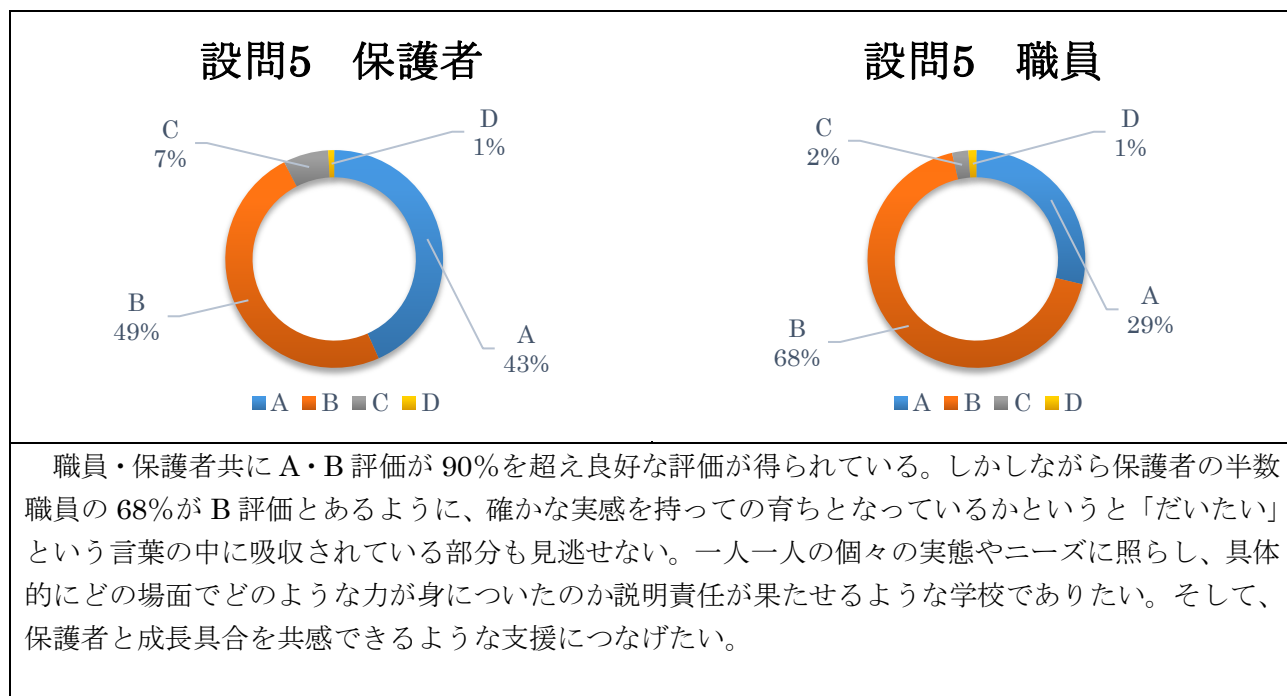


設問4 職員

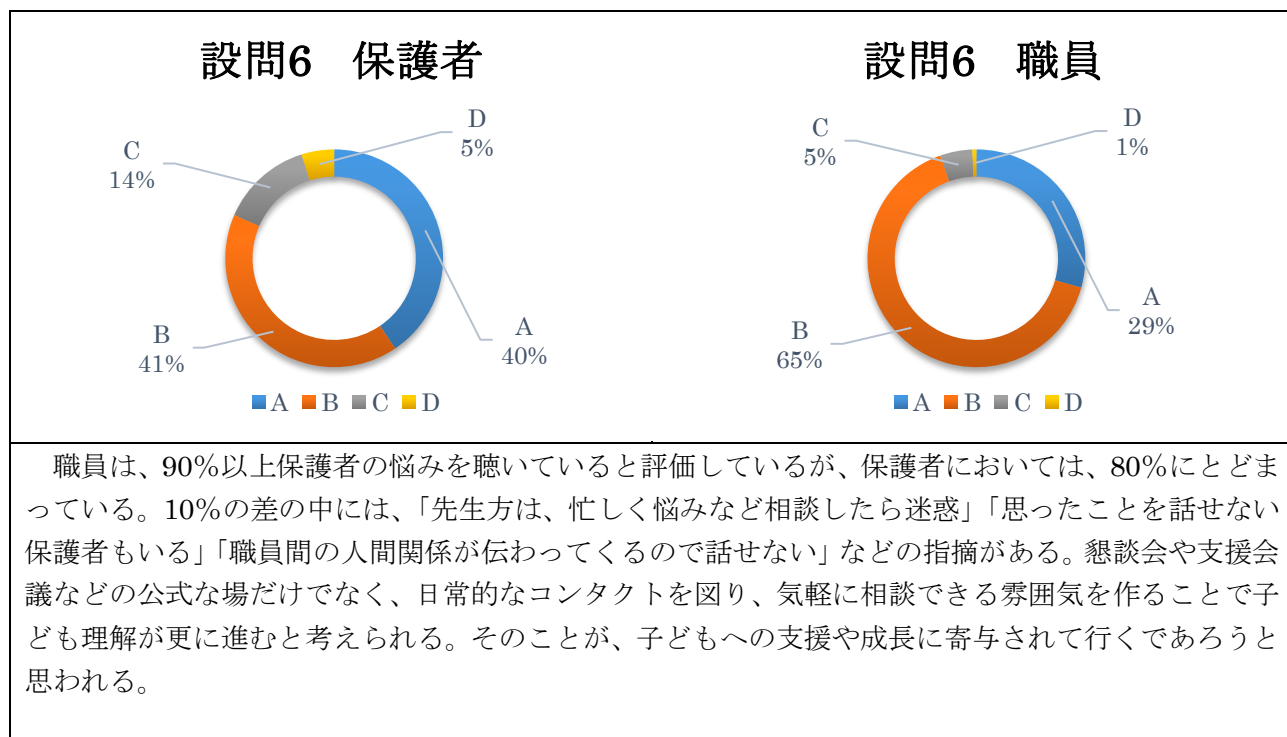


職員は、A・B評価をあわせると90%以上に達している反面、保護者は76%止まりである。保護者のC・D評価は23%で、「支援会議の時間が短く内容が精査しきれない」という意見がある反面、「支援会議の必要感を感じない」という意見もある。個々のニーズや連携の状況に合わせて参加者個々が課題をつかんだり方向性を認識したりすることのできるような支援会議の運営が必要となってくる。

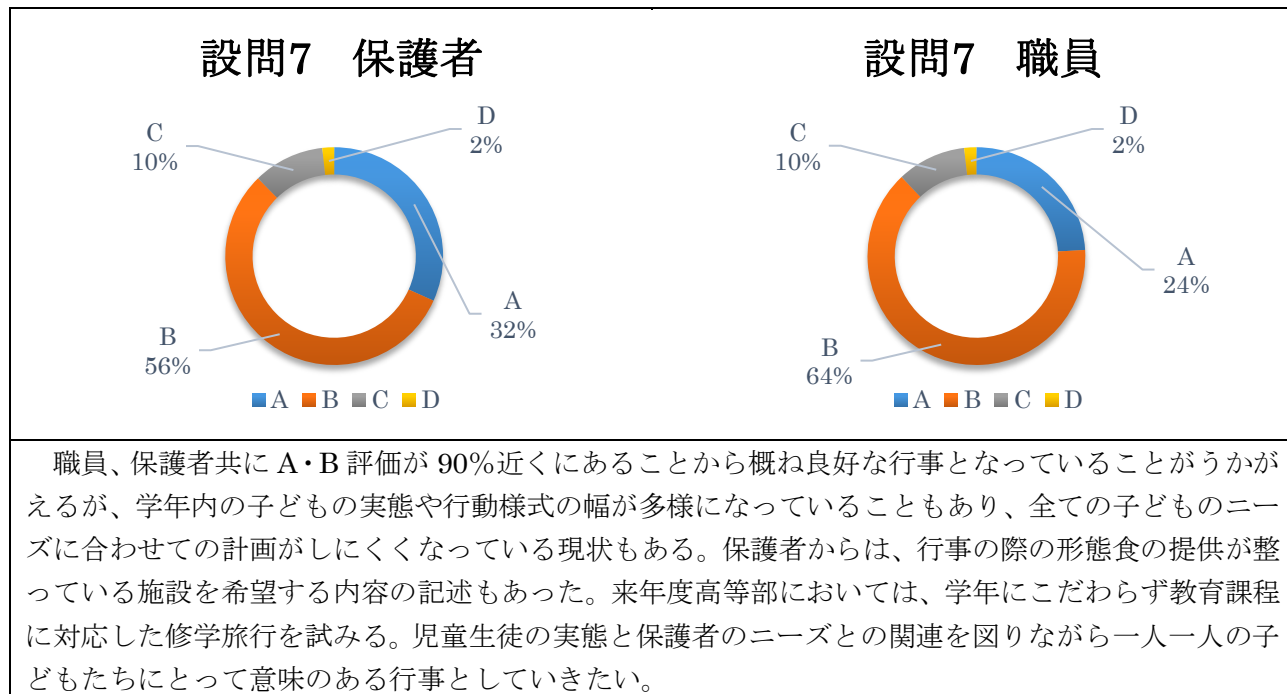
設問 5 児童生徒は、学校生活を通してその子なりに基本的な生活習慣（あいさつ、身辺自立、性にかんすること等）が育っていると思いますか。



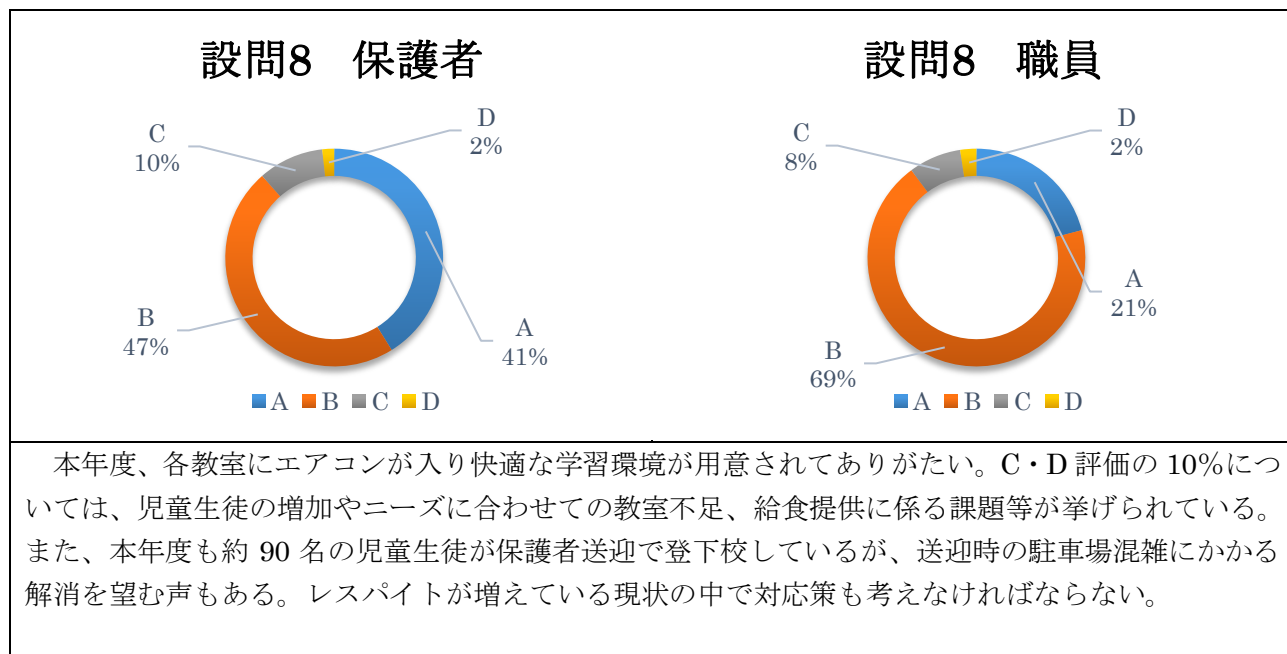
設問 6 学校や家庭における悩みなどを気軽に相談できる体制が整っていると思いますか。



設問7 交流や宿泊行事、校外学習は、児童生徒の実施にあったものになっていると思いますか。

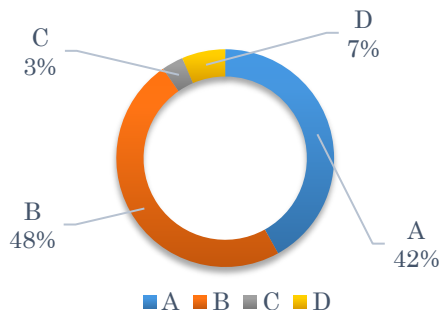


設問8 学習環境（学校の施設・設備、教室環境など）は、児童生徒にとって生活しやすいものになっていると思いますか。

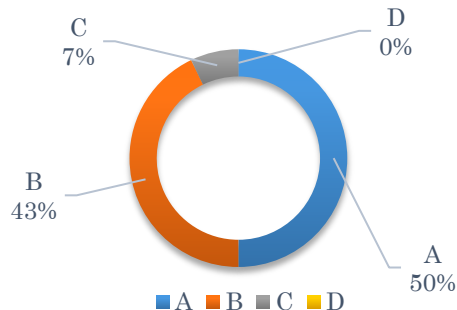


設問 9 寄宿舎では、舎生にとって安心安全な環境を整えたり、暖かい支援が行われたりしていると思いますか。

設問9 保護者



設問9 職員

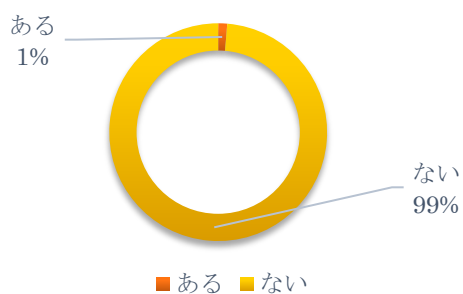


昨年度は、保護者、職員とも C・D 評価がなく、安心・安全が担保された環境作りの評価がなされていたが、本年度は、保護者、職員共に C・D 評価がされた。このことについては、舎生の怪我や服薬ミスなどによる事案が連続したことが原因であると考察される。

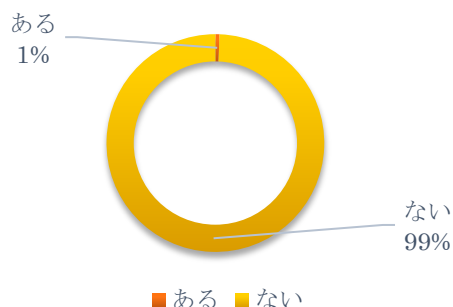
事案を教訓として、舎生の介助の複数化や服薬のダブルチェックの在り方など再点検、見直しを行い、舎生にとって快適で保護者に安心して託していただける寄宿舎運営を図っていきたい。

設問 10 今年度、あなたのお子さんが体罰をされたということを見たり聞いたりしたことはありますか。

設問10 保護者



設問10 職員



保護者も職員も 99%ないという評価であるが、体罰を疑ったり、つながりかねないと感じたりする指摘もあることを重く受け止めたい。

職員からは「強い指導を感じる」「子どもを強制的に動かしている」「不必要に厳しい支援を感じる」という意見や児童生徒の呼称に関して「ちゃん呼び」が気になるなど、子どもを大切にしたい人権感覚を磨く必要があるという意見もある。

チームで子どもの支援を支える学校として共通理解しながらの支援もさることながら、子どもへの対応をチェックしあうことのできるような関係性も大切となってくる。そして、子どもたちの自己肯定感が育まれるような学校体制を整えていきたい。

※ 「ある」と答えた保護者・職員の内容については、身体的な関与に関わる事柄では無いものの、上記の記述にあるように、体罰につながる可能性があるということを受け止め、支援にあたりたい。

